大人用

伝道地便り

２０２３年 第１期　東中央アフリカ支部

第１話「胃に空いた穴」	コンゴ民主共和国
第２話「信仰の祈り」	タンザニア
第３話「牧師か政治家か？」	タンザニア
第４話「争いから逃れて」	ルワンダ
第５話「祈りによって建てられた学校」	ルワンダ
第６話「完済された借金」	ルワンダ

ADVENTIST MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団　伝道局　安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

1）前もって何度か目を通し、自信を持って読む。

2）棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。

3）伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。

4）誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。

5）できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。

6）時には、スキット（寸劇）風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

1．胃に空いた穴　　コンゴ民主共和国

マーセル

マーセルは、死にそうなほどの激しい腹痛に襲われました。お腹に手を置いても痛みがおさまるどころか、さらに痛みは増してきました。

お金もなく、どうすれば良いか分かりませんでした。コンゴ民主共和国の首都キンシャサでは、お金が払えるという保証がない限り、どの病院も受け入れてくれません。

すると、ある人がキンシャサにあるアドベンチストクリニックのことを教えてくれました。妻のシャーロットと子どもたちの助けを借りながら、15 床の小さなクリニックに急いで向かいました。驚いたことに、そこで働く医療従事者たちは支払いについては一言も触れず、その代わり、彼らは、マーセルと彼の家族のために、たくさんの祈りを捧げてくれました。

マーセルは言います。「患者に何も請求する事なく、ただ命を助けることに懸命なクリニックの医療チームの態度に、私も私の家族も大変驚きました。大抵の病院は、最初にお金を支払わない限り、患者を診てくれないのです」

クリニックで様々な検査をした結果、マーセルの胃に穴が開いていることが分かりました。胃に穴が開く原因として考えられるのは、虫垂炎や、腐敗したものや異物を飲み込んでしまった場合、また、発砲や刃物による傷などによります。マーセルの場合、原因が何かは分かりませんでしたが、とても深刻な状況でした。胃の中のものが穴から胃の外へ流れ出ることにより、死に至る感染症を起こしかねない状態だったからです。緊急手術が必要でした。しかし、その手術は複雑なもので、10 人のうち３人は命を落とすという難しいものでした。

マーセルはクリニックに入院しました。しかし、手術に必要な器具がすべてそろっていませんでした。様々な調整の後、必要な器具をどうにかそろえることができ、ついにマーセルを手術室に運ばれました。麻酔医がマーセルを眠らせ、医師たちは慎重に彼を開腹し、胃の修復を行い、縫合しました。

マーセルは、このような繊細な手術を行ったのは医師たちではなく、神様だったと確信しています。彼は、こう語ります。「この手術はリスクがあまりにも大きく、私は、死の淵にいました。しかし、私に手術を施してくださったのは神様なのです。おかげで、このような生死を分ける胃の手術の後も、こうして私は生きているのです」

手術から 10 日経ち、手術が成功したことが確かになりました。マーセルは言います。「私の命は神様の奇跡です。神様がすべてを行ってくださいました。私は、このアドベンチストクリニックで感じた祈りの御霊を忘れることができません。苦難の中にあるとき、神様のご臨在がとても必要なのです」

マーセルも彼の家族も、命が救われたこのクリニックのことを忘れません。そしてこのクリニッ

クを運営しているセブンスデー・アドベンチスト教会の事も忘れないと言います。「このクリニックには、これからも人々に対して親切な行いを続けていってほしい」とマーセルは言います。

2019 年の 13 回安息日献金の一部により、このクリニックの施設・設備を更新することができました。皆様の 13 回献金を感謝いたします。しかしながら、マーセルの話でも分かるように、人口 1700 万人の都市において、15 床の小さなクリニックの必要は、依然として大きなものです。クリニックの医療チームは、1 人ひとりをキリストに導くために、日々献身しています。

マーセルは、自分もキリストに導かれたうちの 1 人だと言います。「私は、ひん死の状態でここに来て、生きて帰ることができました！　神の御名を賛美します！　彼らの親切な行いによって私はキリストに出会うことができたのです！」

（文：ジョージズ・ヌトゥンバ・ムルンバ　西コンゴ・ユニオンミッション、コミュニケーションディレクター）

〈お話のヒント〉

・bit.ly/clinic-of-kinshasa の Encyclopedia of Seventh-day Adventists（アドベンチストオンライン百科事典）に、キンシャサのアドベンチストクリニックについてより詳しく書かれています。

・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。Facebook: bit.ly/fb-mq.

・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ecd-2023.

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go 戦略計画」の以下の項目の具体例です。

「大都市においてのアドベンチストのアウトリーチ、伝道を強化し、多様化させる。」（「伝道の目標」No.2）

「セブンスデー・アドベンチストの機関を強化し、自由、全人的な健康、イエスによる希望を守り、人々の内に神のみ姿を回復させる。」（「伝道の目標」No.4）

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「伝道の目標」No.5）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- 1917 年、現在のザンビア共和国にムソフ伝道所が設立され学校が開校したことが、アドベンチスト教会が、コンゴ民主共和国に広がっていくきっかけとなりました。この伝道所には、コンゴからジャングルを歩いてアドベンチスト学校に通う 130 人のコンゴ人の青年が集まりました。
- 1918 年、S.M.コニグマッハーは、新しい伝道拠点を求めてコンゴに入国しました。ルミナ族長とカコンベ族長は、コンゴ領内のサカニアに教師を派遣するよう要請しましたが、この時、彼らの要請は受け入れられませんでした。しかし、このことは、コンゴでの伝道が広がっていく前段階となりました。

２．信仰の祈り　タンザニア

エリア

エリアは大きな問題に直面していました。タンザニアの高校を卒業し、セブンスデー・アドベンチスト教会が運営するアルーシャ大学に入学が決まっていたのですが、学費を払うためのお金がなかったからです。

アルーシャ大学はエリアの第 1 志望ではなく、５つの志望校のうち、第３志望の大学でした。ある時、高校の同級生のジョセフに電話をして、どこの大学で勉強をするのか聞いてみたところ、「アルーシャ大学に行かないか？　君と一緒に行けたら嬉しいよ」と誘われました。そして２人はアルーシャ大学に願書を出し、２人ともめでたく教育学部の学士課程に合格しました。エリアとジョセフは喜びを分かち合い、神様に感謝しました。しかし２人には大学の学費を払えるだけの資金がありませんでした。そのため、州の奨学金に申し込みました。

大学への入学を控えた前の週、エリアはヨンボ・セブンスデー・アドベンチスト教会の祈祷週に参加しました。祈りのリクエストを紙に書くよう牧師に促された時、エリア自身も驚いたことに、気が付くと祈りのリクエストではなく、感謝の祈りを書き出していました。「神様、アルーシャ大学への入学を許してくださり、授業料を払うための奨学金を受けられるように助けてくださりありがとうございます」。奨学金はまだ受け取っていませんでしたが、神様が与えてくださると信じていたのです。

金曜日、エリアとジョセフはバスターミナルに行き、タンザニアの都市ダル・エス・サラームから、大学のあるウサリバーの町への 600 キロの道のりのチケットを予約しました。チケットの代金を支払うことができるように祈りをささげた後、ジョセフは将来への不安を口にしました。「アルーシャへのチケットは予約したけれど、君も分かっている通り、僕たちはあっちではよそ者だよ？経済的な助けなしにどうやって生きていけるのだろう？」

するとエリアは質問しました。「神様を信じているかい？」。ジョセフは答えました。「信じているさ。だけど……」。エリアはもう一度ジョセフに聞きました。「君の信じている神様は、僕の信じている神様と同じだよね？」「そうだよ」とジョセフは答えました。「神様がバスのチケットを予約することを許してくださったのだから、あっちでも生きていけるように必ず助けてくれるさ」とエリアは言いました。

その日のうちに、奨学金の受給が認められたという知らせが、エリアとジョセフに届きました。ジョセフはすぐにエリアに電話をして、驚きと感動を伝えました。「君の見せてくれた信仰には圧倒されるよ」と彼は言いました。

翌日の安息日、エリアは教会に行き、この良き知らせを分かち合いました。彼にとってこの出来

事は、現実に起こった奇跡でした。牧師は彼のために祈り、教会員たちはアルーシャ大学での学びが祝福されるよう祈りました。

現在エリアは大学での学びを終えようとしています。彼は、安息日を守るために他の大学を辞めざるをえなくなり、この大学に編入してきたたくさんの学生たちと仲良くなりました。彼は、他の大学に行っていたら、安息日を守ることはできなかっただろうと思っています。

「より良い教育を受けたいという希望を持って大学生活を始めましたが、自分の決断に後悔はありません」と彼は言います。

今期の 13 回献金の一部は、アルーシャ大学の新しい多目的ホールの建設費用として用いられます。「現在、アルーシャにある私たちの大学では、建物が足りていません」とエリアは言います。「13 回安息日献金は、よりたくさんの学生が全人的教育を受けられるように、多くの教室とオフィスを備えた建物の完成を支援するものです。今期の安息日献金をささげようと計画されている皆様に、神様の祝福が豊かにありますように」

（文：アンドリュー・マチェスニー）

〈お話のヒント〉

・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.

・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」NO. 5）。

「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」NO. 6）。

「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No. 7）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org からご覧ください。

宣教メモ

- タンザニア連合共和国には、3,078 の教会と 2,424 の機関があります。
  教会員数は 683,469 人で、人口 57,474,000 人のうち、84 人に 1 人がアドベンチストとなります。
- 1903 年、ドイツのアドベンチスト教会は、東アフリカで教会開拓をするために、2 人の宣教師を任命しました〔当時、タンガニーカ（現タンザニア連合共和国）はドイツの植民地だった〕。ドイツのフリーデンサウ大学で牧師の学位を取得し、菜園家であるA・C・エンズと、ドイツのミッションで建物の塗装の働きに従事していたヨハネス・エーラースです。
- 1903 年 11 月 25 日、エンズとエーラースは、無事到着したこと、また、タンガニーカのドイツ総督から南パレを宣教地として与えられたことを電話で伝えました。ギティでは、セキマンガ族長から 25 エーカーの土地を 100 ドイツ・ルピーで購入しました。

３． 牧師か政治家か？　　タンザニア

ジェイコブ

タンザニアに住むジェイコブが、神様に牧師になるよう召されていると初めて感じたのは、彼がまだ７歳の時でした。しかし 10 代になると、牧師になるか、政治家になるか、という人生の岐路に立たされました。政治家になる方が簡単なように思われました。そこで彼は、神様を試しました。

ジェイコブは政治家になるよう、周りから強く期待されるようになりました。何人かの政治家たちは、一緒に仕事をしようと誘いました。その誘いは、非常に強力なものでした。彼らは、君には政治家の素質があると語り、仕事は簡単で、高い給料が得られることを約束しました。

ジェイコブは、彼らの誘いと、牧師になるという小さい頃からの思いとの間で葛藤しました。さらに問題を複雑にしたのは、タンザニアで牧師の養成を行っている唯一のセブンスデー・アドベンチストの大学であるアルーシャ大学で、神学を学ぶための資金のめどがつかないことでした。学費、家賃、食費をまかなうために相当な資金が必要でした。ジェイコブには、国の助成金や奨学金を受ける資格はありませんでした。

ジェイコブは神様を試してみることにしました。信仰を持って、什一をお返しし、諸献金をささげてきた彼は、マラキ書３章 10 節の約束を、主張しようと決心したのです。「十分の一の献げ物をすべて倉に運び、私の家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために天の窓を開き、祝福を限りなく注ぐであろう 」

ジェイコブは次のように祈りました。「愛する主よ、政治家になるか、あなたのための働きをするか、私はあなたの召しを待ちます。そして、最初に召された方を受け入れます」。彼にとって、牧師に召されるよりも、政治家に召されることの方が、はるかに可能性が高いことでした。

祈り終わるとすぐに、ジェイコブは、ある地区の牧師から電話を受け、次の安息日に地区内の教会で説教をしてくれないかと招かれました。ジェイコブはその招きを受け入れました。その安息日の説教の後、ジェイコブは彼の説教を聞いた牧師を含めて教会員が神を讃えているのを聞いて、心を決めました。

ジェイコブは、さまざまな教会で定期的に説教をするようになりました。そして、小学校でチャプレンとして働くことになりました。しかし、しばらくすると、ジェイコブはチャプレンの仕事から離れ、メディアと IT 系の会社を設立するようにという思いが与えられました。彼は、この会社を通してアルーシャ大学に入学するための資金を与えてくださいと神様に祈りました。教会員に助けを求める必要がないほどの十分な資金を、神様が与えてくださいと祈ったのです。

「私は、あなたが私を、宣教の働きに召しておられることはわかっています。どうか大学の授業

料や生活費を払えるだけの資金を与えてください」と祈りました。

すると、設立したメディアとIT会社が、大学で月々に必要な金額を、ほぼ支払えるだけの利益を生み出すようになりました。そして、海外に住む友人たちが、思いがけず資金援助を申し出てくれました。ジェイコブは大学に入学する時が来たのかもしれないと考えました。

そのようなとき、ジェイコブは、大学キャンパスの近くにある教会の副牧師としての働きに召されました。タンザニアでは通常、このような働きには神学科を卒業した人がつきます。入学前の学生に話が来ることは、異例のことでした。ジェイコブはその話を快諾し、大学に入学しました。

現在、ジェイコブは大学での学びを終えようとしています。彼の説教はすでに、若者たちに影響を与えています。実践的な信仰をテーマにした説教シリーズはとても好評で、現在、書籍化が進められています。今ジェイコブが自分の過去を振り返って、７歳のとき、神様が自分を福音宣教の働きに召されたことを確信しています。

「私の身に起きた多くの奇跡は、私がまだ幼い頃に、神様が私を召されたことを証明しています」と彼は言います。「このことは、昔からそうであったように、今でも神様は、人々を幼い頃からご自身の働きに召されることを証ししています」

今期の 13 回献金は、アルーシャ大学の拡張工事のために用いられ、神学科や伝道者を訓練するための教室などを備える多目的ホール建設の助けとなります。神様の働きの召しに応えるジェイコブのような学生を助けるために、皆様の惜しみない13回安息日献金を感謝いたします。

（文：アンドリュー・マチェスニー）

〈お話のヒント〉

・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.

・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。Bit.ly/ecd-2023.

・この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」 戦略計画の以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊性の目標」No. 2）

「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No. 7）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org からご覧ください。

豆知識

- タンザニア連合共和国ではキリスト教が最大の宗教であり、全人口の60%を占めています。最近の調査では、人口の27.7パーセントがプロテスタントで、25.6パーセントがカトリックでした。また、ピュー・リサーチ・センターによると、全人口の36パーセントがイスラム教、2パーセントが伝統宗教、1パーセントが無宗教です。
- タンザニアのよく知られた郷土料理はウガリで、キビ粉やソルガム〔稲科の穀物〕粉で作られた粥です。

４．争いから逃れて　　ルワンダ

クロード

ルワンダに住むクロードは争いの中で育ちました。彼の幼い心は傷つき、現実から逃れるために12歳になる頃には、お酒に酔うことが習慣になってしまいました。

クロードの家庭には常に対立がありました。彼が小さな頃から、父親と母親はいつも言い争っていました。また母親は姑とも折り合いが悪く、言い争いの後に家を出て、実家へ何日も帰ってしまうことがありました。母親は、一家で父親の親戚のいない別の町に移り住もうと懇願しましたが、父親は親戚を残して行くわけにはいかない、と拒否しました。

ある日、父親は重い病気にかかってしまいました。薬を飲んでも悪くなる一方でした。近くのクリニックでは医者も助けることができず、大きな病院に送られました。そこで父親はマラリアと診断されました。父親が病院で何日も過ごす中、クロードは周りの人たちが父親は死ぬのだと言っているのを耳にします。ところが死ぬどころか、父親は病院で変わった行動をとるようになりました。医者は彼を精神科の病院へ転院させました。様々な治療の後、父親は回復して、ようやく家に戻ることができました。しかし、その治療のために、耳が聞こえなくなってしまいました。

疑い深い親戚や近所の人たちは、父親の奇跡的な回復を祝うどころか、本当にマラリアだったのかと噂をし始めました。そして母親が父親に毒を与えていたのではないかと陰口を言うのでした。母親はその噂に耐えられず、ついに離婚し、クロードは父親のもとに残されました。父親はクロードを祖母のところへ預け、その後再婚すると、クロードを呼び戻しました。

クロードは辛い幼少期を過ごし、心に傷を負いました。自分は独りぼっちだと感じていました。そしてお酒を飲むようになり、気がつくと常に酔っ払っている、そんな状態にまでなってしまいました。12歳の男の子には耐えられないほど、彼は絶望的なまでに不幸だったのです。

ある日、いつものようにお酒を何杯か飲んでいると、近所の男の子がエレン・ホワイトの『大争闘』を手に持って通りを歩いているのに気がつきました。本の表紙には、白い天使たちの絵が描かれていました。そして驚いたことにその本の題名が『大争闘』なのです。クロードは「争闘」という言葉が意見の相違や言い争いを意味していることを知っていました。彼はこれまでたくさんの意見の相違や言い争いを目にしてきました。もしその本が激しい言い争いについての本ならば、なぜ真っ白な天使たちが表紙に描かれているのだろう、と不思議に思いました。彼は、とても興味を持ちました。

「君のその本、借りてもいいかい？」と、その男の子に尋ねました。するとその男の子はクロードがお酒に酔っているのに気がつき、迷うことなくこう言いました。「もし君が悔い改めるなら、この表紙にある天使たちのようにしっかりと立つことができるんだよ」。「もし君が悔い改めるのなら、イエス様がそのご栄光と共にこの世に戻って来ら

れるとき、君もイエス様と共に立つことができるんだよ」

男の子の言葉は稲妻のようにクロードの心を打ちました。そして彼はすぐにお酒をやめました。自分の悪い行いに強い後ろめたさを感じました。そして、クロードは、その近所の男の子が、毎週安息日に教会に行っていることを思い出しました。

「次の安息日、君と一緒に教会に行ってもいいかい？」と尋ねました。

男の子はニコリとして、「もちろん。僕と一緒に教会に行こう」と言いました。

安息日に教会では子どもも大人もクロードを歓迎してくれました。彼は教会で幸せを感じ、愛を感じ、安息日学校のプログラムを楽しみました。彼は次の安息日もその次の安息日も教会に戻ってきました。そして聖書を読み始めました。また、他の霊的な本も教会の子どもたちに借りて読みました。

ある本に、周りの人に神様を伝える証人になりたいと願う男の子のことが書かれていました。その物語の中で男の子はお父さんにこう聞きます。「他の子どもたちに神様の言葉を教えるにはどうしたらいいの？」するとお父さんは「君の大好きな聖句を紙に書いてそれを子どもたちに渡してごらん」と答えました。

クロードはそのアイディアを非常に気に入り、自分の好きな聖句を紙に書き、他の子どもたちに渡し始めました。するとすぐ、その中の数人の子どもたちがクロードと一緒に教会に行き始めました。そしてそのうちの４人はバプテスマを受けてイエス様に心をささげる決心をしました。

現在クロードは15歳の高校生になりましたが、今もなお聖句を書いて周りの人に配っています。「僕はイエス様が大好きです」とクロードは言います。「十字架のおかげで僕は赦されるということを知り、感謝しています。イエス様の再臨に備えながら、神様の御言葉を伝え続けたいと思います」

皆様の安息日学校ミッション献金は、ルワンダや世界中にイエス様の再臨の良き知らせを伝えるために用いられます。皆様の献金を心から感謝いたします。（文：アンドリュー・マチェスニー）

〈お話のヒント〉

・写真はクロードの小さい頃のものです。
・クロードのようにキリストの証人となる方法はないか、聴衆に問いかけてみましょう。安息日学校のアクティビティとして好きな聖句を紙に書き、後で誰かに渡してみましょう。
・写真のダウンロードはこちらから：Facebook: bit.ly/fb-mq.
・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ecd-2023.
・2023年2024年に予定されている『大争闘』のプロモーション伝道に参加しましょう。greatcontroversyproject.com に詳細が掲載されています。担当の牧師に聞いてみましょう。

・この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go 戦略計画」の以下の項目の具体例です。
「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「伝道の目標」No.6）
「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「伝道の目標」No.7）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- ベルギー出身の若き開拓者ダビッド・エリー・デルホブ（1882～1949）は、第一次世界大戦後まもなく、ルワンダでアドベンチストの活動を開始しました。彼は、ニャンザの町の北 11 マイル（24km）にある、頭蓋骨の丘と呼ばれる低い尾根に 125 エーカー（50 ヘクタール）の土地を与えられました。その場所は、かつてルワンダ王によって呪われたと原住民が信じていた場所でした。そこにギトウェ伝道の基礎は築かれたのです。

５． 祈りによって建てられた学校　　ルワンダ

セザイア・Y・ピメンテル・デ・ペニークック

これは、皆さんの 13 回献金で夢が実現した話です。

2016 年､ルワンダの首都キガリ郊外にある中央アフリカ・アドベンチスト大学に、医学部を建設するために、13 回献金が集められました。何年もの間、東中央アフリカ支部の教会員たちは、医学部が開設されることを夢見ていました。この地域には､医療に対する大きな必要があったからです。

そこで支部の総理は、医学部開設の可能性を模索するため、チームを任命しました。世界総会の総理がルワンダを訪問した際は、ルワンダの大統領と面会し､医学部開設について支持を得ました。

しかし、このプロジェクトは多くの課題に直面しました。人々の中には本当にこのプロジェクトが実現するのかどうか、疑問を抱く人たちも出てきました。最も大きな課題は、資金面と、初代学長を務める人材を確保することでした。

神様は支部内の教会員たちを通して資金を与えてくださいました。また、2016 年の 13 回献金を通して、世界中の教会員たちから資金を与えてくださいました。また、メキシコのモンテモレロス大学で教鞭をとっていた、コスタリカ出身のユースタス・A・ペニークック医師が、初代学長としてプロジェクトを率いるために招かれ、家族と共にルワンダに移住しました。

しかしながら、それはまだ始まりに過ぎませんでした。国の様々な規制基準を満たすこと、カリキュラムの開発、建設関係の手配、家具や機器の準備、教授陣やスタッフの確保など、残る課題は山積みでした。

このプロジェクトは、祈りが重要な役割を果たしました。支部を超えて、さらには世界中で祈りがささげられました。ペニークック医師とその家族の故郷であるコスタリカやメキシコでは、教会員がオンラインで祈るグループが作られました。ルワンダ時間の午前３時、教会員たちはオンラインで集まって祈り､祈りのグループのリーダーは、毎日、「具体的に何について祈るべきでしょうか」と、問いかけました。

アドベンチストではない人たちも祈ってくれました。ある日、アドベンチストではない夫婦が建設現場を訪れ、その父親が､「私たちの娘をこの学校に送るため､この学校が開くのを待っています。たくさんの困難があるとは思いますが、私たちも祈りの組を持っています。神様が若者を教育するこの機関を必ず建ててくださると信じています」と言ってくれました。

ついにカリキュラムが承認され、医学部の建物は完成し、2019 年 9 月 2 日に落成式が行われました｡あとは構内の検査を残すのみとなりました。しかしそこへ、新型コロナウイルスのパンデミックが起こりました。学校の必要な機器は、閉鎖された国境で足止めされました。すべての希望が失われそうになったとき、神様のご介入により、特別な許可が与えられ、学校に機器が届けられました。

ルワンダでの 2 回のロックダウンの後、州の検査チームがようやく施設を訪れ、学校の認可が下りました。医学部は 2021 年 1 月、第 1 期生受け入れに向け準備を進めました。東中央アフリカ支部のそれぞれの地区内で、医療伝道師になる可能性のある若者たちが特定されました。未来の医療伝道のリーダーとして、神様の働きを担うための学力と英語力のある学生たちが集められました。

そんな時、再びコロナウィルスによるロックダウンとなり、授業のスタートが遅れる事態となりました。留学生たちはロックダウンが解除されるまで自国に留まるよう要請されました。しかし、4 人の留学生がすでにルワンダに向けて出国しており、旅程をキャンセルすることができませんでした。そこで、4 人は、南スーダン、エチオピア、カメルーン、リベリアといった故郷から遠く離れたルワンダの地で、ロックダウンを過ごさなければなりませんでした。その数週間はとても長く感じられましたが、2021 年 3 月 8 日、ついに学校は開校しました。

現在医学部はフル稼働しています。たくさんの課題が残っていますが、神様がすべてを担ってくださることを、学校の指導者たちは確信しています。

皆様の 13 回安息日献金により、東中央アフリカ支部にアドベンチスト大学医学部が開設されました。今期の 13 回安息日献金の一部は、同校の新しい教職員のための住宅建設のために用いられます。皆様の献金とお祈りを心から感謝いたします。

（文：セザイア・Y・ピメンテル・デ・ペニークック〈メキシコからの伝道師。医学部で教鞭を執る。ユースタス・A・ペニークック医師の妻〉）

〈お話のヒント〉

・3 月 25 日に 13 回献金が集められるということを会衆と確認しましょう。私たちが献げる伝道献金は神様の御言葉を世界中に広めるための贈り物だということ、また、私たちの 13 回献金の 4 分の 1 は東中央アフリカ支部の 5 つの国で行われている 6 つのプロジェクトを支援するために、直接送られることを再確認しましょう。『聖書研究ガイド』の裏表紙にプロジェクトが記載されています。

・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。Facebook: bit.ly/fb-mq.

・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ecd-2023.

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go 戦略計画」の以下の項目の具体例です。

「10/40 ウィンドウの中にある、伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々と、キリスト教以外の宗教に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「伝道の目標」No.5）

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ルワンダ人の主な収入源は自給自足の農業であり、料理にはバナナ、プランテン（イビトケ〔バナナのような食べ物、味はジャガイモに近い〕）、サツマイモ、豆、キャッサバ芋（マニオク）などの地元の食材が使われます。また、多くのルワンダ人は、月に数回しか肉を食べません。

６．完済された借金　　ルワンダ

リディ

リディは､ルワンダの貧しい家庭で育ちました。彼女の一番の願いは、大学を卒業して良い仕事に就き、両親を助けることでした。しかしそれを成し遂げるのは、不可能だと思えるような環境に彼女はいました。

リディは、高校で良い成績を修め、ルワンダ大学に合格しました。この大学はルワンダの高等教育機関の中で一番大きな大学です。しかし、数少ない国の奨学金を得ることができず、彼女に自力で学費の全額を支払う余裕はありませんでした。また彼女の両親にも、彼女を援助するための資金はありませんでした。

しかし、リディの両親も、彼女に勉強をして欲しいと願っていました。彼女の両親は、学費がより手頃な中央アフリカ・アドベンチスト大学の看護学科に入学できるように手配してくれました。リディは大喜びです！　看護師になって病気の人たちを助けることは、長年の彼女の夢でした。そしてその夢を叶えるための教育を受ける機会が与えられたのです。

新学期、彼女は看護学生 35 人のクラスに仲間入りし、看護学生として大学生活をスタートしました。ルワンダ大学では、広大なキャンパスで大勢の学生の中に紛れてしまうことになりますが、中央アフリカ・アドベンチスト大学は、小さなキャンパスにわずか 70 人の学生しかいません。彼女は、キャンパスの人たちは誰もが親切で親しみやすく、家族のように一緒に暮らしていることがわかりました。先生方もフレンドリーで、学校で教えるだけではなく、朝の礼拝、週の半ばの祈祷会、そして安息日の礼拝の時には、学生たちと一緒に過ごしていました。

リディの家庭はアドベンチストではありませんでしたが、安息日のことは知っていました。幼い頃、アドベンチストの友だちが数人いて、安息日について教えてくれたことがあったからです。大学の学生は、安息日に礼拝に出席することが必須であったため、彼女も毎週の安息日を守ることになりました。しかし、この決まりについてリディはまったく気になりませんでした。安息日が大好きだったからです！

安息日についてもっと詳しく知りたいと思うようになったリディは､聖書講座を申し込みました。そして勉強すればするほど、７日目の安息日は神様の聖なる日なのだと確信するようになりました。しかし、自分の心をイエス様にささげてバプテスマを受ける決心は､先延ばしにしました｡彼女は、「もし私が１年目の講義をすべてパスできたら、バプテスマを受けよう」と、自分に言い聞かせるのでした。彼女は、１年目の講義をすべてパスすることができました。しかし、バプテスマの決心は、再び先延ばしにしました。

２年目になると、彼女は学費の支払いに苦労するようになりました。2 年目を終えることができないと思うほどに、金銭的に厳しい状況になりま

した。彼女は神様と取引をしました。「もし２年生のクラスをすべて修得することができたら、バプテスマを受けます」と祈りました。彼女は、２年生を修了することができました。この時は、約束を守りました。神様は彼女を驚くべき方法で祝福され、彼女のできる唯一のことは、神様に自身の心をささげることでした。

リディはバプテスマを受けました。しかし、借金の問題は残りました。彼女の両親は彼女を援助するための資金がなく、リディは勉強しながら働かなければなりませんでした。そのため、彼女の生活は非常に苦しくなり、期末試験も幾つか受けられない状態でした。そのような暗い日々の中で、一筋の光であったのはアドベンチストのクラスメイトたちの存在でした。彼らは彼女と共に祈り、あきらめないように励ましてくれました。そして何とか彼女は、３年生を修了することができました。

しかし、最終学年となる４年生の初め、彼女は大学を中退しなければならないことが明らかになりました。大学からの借入金が 100 万ルワンダフラン（米ドルで 1500 ドル、日本円でおよそ 20 万円）を超えていたからです。この借金がある限り、クラスの履修登録をすることはできません。

リディは借金を返すためにフルタイムで働き始めました。大学に新しく医学部が開設されるため、キャンパス内で建設の仕事を見つけることができました。自分が働いている間、友人たちが授業を受けたり、キャンパスライフを楽しんだりしている姿を見ると、心が痛みました。こんなことなら、大学なんて来なければよかったとさえ思うことがありました。いつしか彼女は、仕事を辞めて故郷の村に帰りたいと思うようになりました。

ある日、彼女は大学の先生に、涙ながらに自分のことを相談しました。すると先生は優しくこう言いました。「主は、あなたの状況をすべて知っておられます。主は、あなたが困っているときに、お見捨てになることは決してありません」。先生は、大学を辞めないで、１週間神様に祈るように彼女を励ましました。リディは１週間、毎日祈り続けました。しかし、1 週間がたっても、神様からの答えは何もないように思われました。

先生は、「あきらめずに祈り、神様からの答えを待ち続けなさい」と、彼女を励ましました。

リディは神様にもう１週間、毎日懇願しました。2 週間目の終わり、彼女に予期しない電話が入りました。家族の友人からで、学費の援助をしたいという申し出でした。そして、その額はなんと、借金を返すのに必要な額とまさしく同じ額でした。リディは感激しました！　彼女の祈りは聞かれました。彼女は、借金を返すことができ、一生懸命勉強して、クラスメイトたちに追いつくことができました。

2021 年 11 月、リディは、中央アフリカ・アドベンチスト大学で看護学士を取得して卒業しました。「主は私の祈りに答えてくださっただけでなく、困難に立ち向かう力と忍耐を私に教えてくださいました。この経験により、神様がどこに送られても私は、神様にお仕えすることができます」と、彼女は言います。

皆様の 2016 年の１３回献金により、中央アフリカ・アドベンチスト大学の医学部を建設することができ、感謝しています。医学部は 2021 年に開校することができました。今期の 13 回献金は、医学部の新しい教授陣の住宅建設のために用いられます。この重要なプロジェクトと、東中央アフリカ支部の 5 つのプロジェクトを支援するために、皆様の惜しみない献金を心より感謝いたします。

（文：アンドリュー・マチェスニー）

〈お話のヒント〉

・地図を使って、東中央アフリカ支部にある５つの国を確認してみましょう。ルワンダ、ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア：これらの国々が教育伝道資金として、13 回献金を受け取ります。

・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。Facebook: bit.ly/fb-mq.

・東中央アフリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ecd-2023.

・この話は、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go 戦略計画」の以下の項目の具体例です。

「10/40 ウィンドウの中にある、伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分ではない地域に住む人々と、キリスト教以外の宗教に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」(「伝道の目標」No.2)

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「伝道の目標」No.5)

「子ども、若者、ヤングアダルトの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「伝道の目標」No.6)

「若者、ヤングアダルトが神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」(「伝道の目標」No.7)

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ルワンダ共和国は、アフリカ大陸でガンビア、エスワティニ、ジブチに次いで 4 番目に小さな国です（国土は 26,338 平方 km）。
- ルワンダは世界で最も人口の少ない国の一つであり、平均年齢は 19 歳です。
- ルワンダでは、陸上競技、バスケットボール、サッカー、バレーボールといったスポーツが盛んです。また、サイクリングは、もともと移動手段の一つとして考えられていましたが、現在ではスポーツとして人気が高まっています。